食育推進計画策定委員会骨子案意見調査票に対する反映状況　資料1

区分	No	意見内容	担当課	反映状況
基本理念	1	基本理念のくらすは暮すと漢字でよいのでは。	健康づくり課	標語なので、くらすは平仮名にしたが、第5次小田原市総合計画の中でも、暮らすは漢字を使用しているため、くらすを漢字の「暮らす」への表記に変更する。
	2	国の基本法の目的　第4条と第5条の欠落	子育て支援課 学校教育課 教育指導課 農政課 健康づくり課	第四条（食育推進運動の展開） 食育を推進するための活動は、国民、民間団体等の自発的意思を尊重し、地域の特性に配慮し、地域住民その他の社会を構成する多様な主体の参加と協力を得るものとするとともに、その連携を図りつつ、あまねく全国において展開されなければならない。 第五条（子どもの食育における保護者、教育関係者等の役割） 食育は、父母その他の保護者にあっては、家庭が食育において重要な役割を有していることを認識するとともに、子どもの教育、保育等を行う者にあっては、教育、保育等における食育の重要性を十分自覚し、積極的に子どもの食育の推進に関する活動に取り組むこととなるよう、行われなければならない。 説明文の中で、親子ぐるみ、学校ぐるみ、地域ぐるみという言葉や目標5で「市民・団体・行政が一体となって食育を推進する」という意味の中に、保護者、教育関係者等を含めている。
	3	なぜ「子どもたち」と「生産からつながる食」に着目するのか、根拠を明確にしたい。 例:「子ども」特に発育発達期にあり、生活習慣の形成期でもあるため	食育推進における関係各課	1　発育発達期にあり、生活習慣の形成期であるため。 2　子どもの食育を通じて、家庭を中心とした、親子ぐるみ、学校ぐるみ、地域ぐるみの食育を推進する必要があるため。 3　生産からつながる食とは、環境・生産・消費からつながる食循環を指している。小田原市には、農業、漁業が行われており、生産からつながる食を体験できる環境である。 補足事項として、食の生産流通などを通して、自然の恵みや多くの人の労働により食生活が成り立っていることを知ることにより、食に対する感謝の心を醸成するため。

食育推進計画策定委員会骨子案意見調査票に対する反映状況　　資料1

区分	No	意見内容	担当課	反映状況
基本理念	4	「生産からつながる食」の計画は具体的にどのようなことか。	農政課 水産海浜課 学校教育課 教育指導課	教育ファーム等の位置づけ、市民農園の活用、学校農園、漁業関係など。各所管で取組み状況を説明する。
	5	食環境の課題（1）「食」を大切にする心の欠如とあるが、心の前に「感謝」を入れて、(1)「食」を大切にする感謝の心の欠如に修正してはどうか。	健康づくり課	食を大切にする心とは、大きな意味で捉えており、具体的な目標にも「食べ物を大切にする気持ちを育む」とある。生産者への感謝の気持ちは基本的施策の中にも入っているため、この部分では、「食」を大切にする心の欠如のままで良いのではないか。
	6	食環境の課題（2）を、栄養バランスの偏った食事や食習慣の問題（朝食欠食、孤食、外食の増加）に修正してはどうか。	健康づくり課	（2）栄養バランスの偏った食事や食習慣の変化　としてはどうか。 別の案として「食習慣の変化」では変化を肯定した上でその対応を考えると取れるので、「食習慣の乱れ」などではどうか。
	7	食環境の課題（4）に、食料自給率の低下と「食」の安全上の問題を追加してはどうか。	暮らし安全課 農政課 健康づくり課	（4）食料自給率の低下と「食」の安全　としてはどうか。 別の案として「食品の安全性への不安」として追加してはどうか。 食の安全･安心については具体的な目標に掲げているが、食料自給率の低下についてはない。また、基本的施策においても別項目となっている。
	8	食環境の課題(4)に、食の安全性の問題（添加物、残留農薬等）を追加してはどうか。	農政課 暮らし安全課	（4）食料自給率の低下と「食」の安全　としてはどうか。

食育推進計画策定委員会骨子案意見調査票に対する反映状況　　資料1

区分	No	意見内容	担当課	反映状況
基本理念	9	食環境の課題(4)の食料自給率についての詳細を聞きたい。	健康づくり課 農政課	日本における食料自給率(カロリーベース)は年々下がり、約40%。神奈川県は3%で全国で低い方から3番目となっている。 食料自給率の低下の原因は食生活の変化が大きく、自給品目の米の消費が減ったこと、畜産物や油脂類の消費が増えたこと、畜産物や油脂の生産に必要なとうもろこしなどの飼料穀類や、大豆、菜種などの油脂原料を輸入に頼らなければならないことなどがあげられる。
基本理念	10	食環境の課題に、(6)として、子どもの食育における保護者、教育関係者等の役割を追加してはどうか。	子育て支援課 学校教育課 健康づくり課	意見2と同。親子ぐるみ、学校ぐるみ、地域ぐるみという言葉や目標5で「市民・団体・行政が一体となって食育を推進する」という意味の中に、保護者、教育関係者等を含めている。
計画の位置づけ	11	計画の位置づけ　(3)すべての食育関係者(団体)を入れてほしい。	健康づくり課	食育関係者には、団体も含まれる。
施策体系	12	基本的施策6について 食文化の継承は、現在では小田原の伝統食、文化が失われているような感じがある。 食の大切さ、食べる力には、是非、伝統食を食べてこそ、小田原の地で生きていることが実感できると思う。	健康づくり課 産業政策課	具体的に各委員の意見をいただく。

食育推進計画策定委員会骨子案意見調査票に対する反映状況

資料1

区分	No	意見内容	担当課	反映状況
施策体系	13	施策1の想定される取組について 一番上が「家庭教育力の充実」がよいと思う。	教育指導課 学校教育課 健康づくり課	家庭教育力の充実が、大切だと充分認識しているが、「家庭の健康づくり」や「調理力の向上」など、食に関する家庭での具体的な取組を始めにあげ、それを確実に進めていくために「家庭教育力の向上」が不可欠であるという組立で、原案どおりの順番で一番上に家庭教育力の充実をあげなくても良いのではないか。
	14	施策2の想定される取組について 学校における食育の推進（全体計画の作成）を追加してはどうか。	教育指導課 学校教育課	教育委員会で調整し、第2回食育推進計画策定委員会で回答する。
	15	施策6の想定される取組みについて 食文化の担い手の育成を入れて頂けないか。 　すでに小田原市で取り組んでいる事業（資料7）があるのでいいのではないかと思われる。	健康づくり課 農政課	健康づくり課では、食生活改善推進団体の食生活改善推進員の養成と育成を行っている。食生活改善推進員は、鯵の手開きを伝承している。 農協の女性部は、地場の野菜の活用や梅干しの作り方を市民に伝承している。 施策1の「家庭教育力の充実」と同様の考え方で、「食文化の担い手の育成」を入れることも可能。